

授業改善書

科目名	メディア文化論
担当者	岡田正樹

授業の概要

本講義は、「メディアの不透明性」という視点を軸に、メディアと文化、社会との関係を考察するという内容であった。音楽や映像、写真等の実例を用いながら、メディアが私たちの思考や経験、人間関係等をどのように左右しているのか、そしてメディアはいかにして社会に埋め込まれていくのかを明らかにした。

授業の問題点

学習態度に関する評価に関して、「授業外学習」の数値があまり高くなかった。また、一部に遅刻や課題未提出も見られた。
「シラバスに提示されていた内容、進度との一致」に関して、比較的やや低い数値であった。本講義は音声や映像、そのほかメディアの実物を多く用いるスタイルのため、今回、対面授業とオンライン授業を混合した形式での授業実施ということで順番や資料をやや変更する必要があったことが理由かと思われる。

学生の授業満足度

アンケートの数値やコメントシートなどでの反応を見る限り、関心を持ってもらえたように思うが、より良い方法や内容となるよう引き続き検討していきたい。
講義時間中の口頭での発言は遠慮がちであったが、コメントシートや提出課題においては内容や資料に関する意見や質問をくれるなど、積極的に関与してくれた。

授業改善の課題と方策

授業外学習について、積極的に行ってもらえるよう、より多様な話題を例に取り込み、学生のさまざまな興味関心に対応したい。一方で、提出課題等を見ると、授業では扱っていない自らの関心事や時事的な話題とひきつけて意見を提示していることも多い。その意味では授業外の領域にも学習内容を応用して考えをめぐらせている学生も一定数いた。この傾向は維持できるようにしたい。
課題については、必ず提出するよう、よりしっかり伝えるとともに分量も再検討する。

その他